

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第15号）について（送付）  
八代地域で3月27日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、指導の参考にして下さい。

記

越冬世代（幼虫+蛹）の発生量は平年に比べ多く、発蛾最盛日の予測は平年より2日早い4月16日である。

1 調査結果の概要

越冬世代の発生量                      平年比多  
越冬世代成虫の発蛾最盛日        平年より2日早い

- (1) 幼虫及び蛹の発生量は、6.9頭/10㎡(平年2.6頭/10㎡)と平年比多の発生であった(表2、図1)。  
(2) 越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4月18日)に比べ2日早い4月16日と予測された(表1)。

2 防除対策

- (1) 越冬世代の発生量（幼虫+蛹）は、過去10年間で最も多いことから（図1）4月の第1世代幼虫の防除を徹底し、「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生を抑えること。  
(2) 防除適期は、粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤が発蛾最盛日から7日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2～3回の防除を行う。  
(3) 予測される発蛾最盛日は、今後の気温により変動し、地域によるばらつきもあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況に注意して防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報（積算温度による発蛾最盛日予測、予察灯データ）については、病虫害防除所のホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto>）に随時掲載します。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	蛹化率	発蛾最盛日
本年	35.8	4月16日
昨年	12.5	4月21日
平年	19.4	4月18日

注) 蛹化率：調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

発蛾最盛日：50%蛹化率+16.7日(蛹期間の平均気温が18℃の場合)

50%蛹化日：(50%-調査日の蛹化率)÷蛹化の増加率+調査日-31日

蛹化の増加率：5%(1日平均)

表2 イグサシンムシガ越冬調査結果

(調査年月日：平成30年3月27日)

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m <sup>2</sup> (幼虫+蛹)	茎数/株
1	八代市	野崎	100	0	0	0	0	0.0	62.6
2		鏡	100	10	6	1	7	19.6	46.8
3		宝出	100	3	0	0	0	0.0	54.8
4		有佐	100	12	2	1	3	8.4	81.4
5		北平和	100	1	1	0	1	2.8	42.2
6		鼠蔵	100	6	4	0	4	11.2	66.2
7		葭牟田	100	7	2	3	5	14.0	81.4
8		新開	100	6	4	3	7	19.6	42.8
9		郡築	100	12	2	4	6	16.8	30.4
10		昭和	100	2	1	0	1	2.8	43.8
11		北新地	100	0	0	0	0	0.0	30.8
12		千丁	100	3	0	0	0	0.0	39.4
13		太田郷	100	51	1	5	6	16.8	72.4
14		太牟田	100	4	1	0	1	2.8	75.6
15		吉王丸	100	12	1	1	2	5.6	71.0
16	氷川町 (旧竜北町)	鹿島	100	8	1	0	1	2.8	36.8
17		鹿野	100	4	1	1	2	5.6	50.0
18		網道	100	0	0	0	0	0.0	31.8
19		野津	100	1	0	1	1	2.8	31.4
計			1,900	142	27	20	47	6.9	52.2

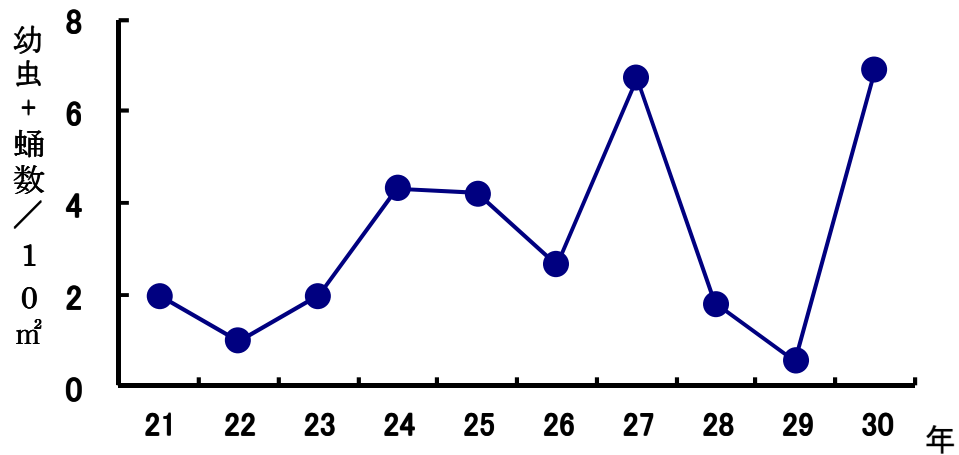


図1 イグサシンムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移 (八代地域)

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所  
(生産環境研究所)

担当：加賀山

TEL:096-248-6490